

第 20 回 静岡市ものづくり産業振興審議会 会議録

- 1 開催日時 平成 30 年 3 月 28 日（水） 午前 10 時 00 分～午前 11 時 30 分
- 2 開催場所 静岡市清水産業・情報プラザ
- 3 出席者 **【委員】**
山内委員、鳥羽委員、小澤委員、上妻委員、杉山委員、前田委員、
牧野委員、松岡委員、望月（有）委員、望月（磨）委員、山下委員
【事務局】
赤堀経済局長、池田経済局次長兼商工部長、加納参与兼産業振興課長、
杉本地場産業担当課長、佐藤参事兼課長補佐、山本参事兼地場産業係長、
松浦工業振興係長、頭師主幹兼副主幹、松田主査、寺田主任主事
（産業政策課）藤原課長補佐兼企画係長、竹澤主任主事
- 4 傍聴者 一般傍聴者 なし 新聞記者 なし
- 5 開 会 （事務局：松浦工業振興係長）

定刻となりましたので、第 20 回静岡市ものづくり産業振興審議会を開催いたします。本日は年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

さて、お手元の次第に従いまして、会議を進めていきたいと思っております。まず、会議を始める前の確認事項といたしまして、3 点お知らせいたします。本日は、井野委員から、所用のため欠席するとのご連絡をいただいておりますが、その他の皆様にはご出席をいただいておりますので、静岡市ものづくり産業振興条例施行規則第 6 条第 2 項、「審議会は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開くことができない」との規定により、本日の審議会が成立していることをご報告いたします。2 点目としては、会議の「公開」であります。静岡市では、「附属機関等の設置及び運営に関する指針」に基づきまして、ものづくり審議会を含めた附属機関の会議は、原則公開となっております。本日の会議については、非公開事項となるものを含んでおりませんので、公開としたいと思っておりますが、皆様、よろしいでしょうか。

【各委員】 了承

（事務局：松浦工業振興係長）

それでは、公開といたします。

また、審議の経過等によりまして、非公開とすべき事項が生じた場合には、その都度、

その旨を皆様にご決定いただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

3点目としては、「会議録」についても公開となりますので、事務局で会議録を作成し、会長と他委員1名のご署名をいただいて、公開の手続きを行いたいと思います。会長以外の署名人は、杉山委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【杉山委員】 了承

(事務局：松浦工業振興係長)

ありがとうございます。

それでは、次第2の「会長あいさつ」へ移りたいと思います。山内会長、お願いします。

【山内会長】

本日は年度末のお忙しい中、井野委員を除く全委員の皆様にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

前回の審議会から5か月が経過し、その間にも社会情勢は目まぐるしく変化していると感じています。特にIoTやAIは次々と新しい事例が発表されており、うっかりしていると世間に取り残されてしまうのではないかという危機感もあります。

本日は、これまでの技術を大事にしつつ、新しい技術を取り入れるような柔軟性のある計画づくりのため、ご忌憚のない意見をお聞かせいただければと思います。

よろしくお願いいたします。

(事務局：松浦工業振興係長)

山内会長、ありがとうございました。

それでは、次第3の「経済局長あいさつ」へ移りたいと思います。赤堀経済局長、お願いします。

【局長あいさつ】 赤堀経済局長

本日は、年度末の大変お忙しい中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本審議会につきましては、昨年11月に「第3次静岡市ものづくり産業振興基本計画策定案の検討」に関する諮問をさせていただき、次期計画策定についての議論がスタートいたしました。

今回はその端緒として「第3次基本計画検討に当たっての視点」に関して、皆様のご意見を伺い、そのご意見をもとに、今後事務局で関係先へのヒアリングを行うとともに、基本計画の方向性の検討を行っていきたいと考えております。

本日も皆様には忌憚なくご発言をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

(事務局：松浦工業振興係長)

ありがとうございました。

続きまして、次第4の「議事」に移ります。

それでは、今後の議事進行については、ものづくり産業振興条例施行規則第5条第3項、「会長は、審議会の会議の議長となる」との規定によりまして、進行を山内会長にお任せしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【山内会長】

それでは、次第に従い、議事を進めたいと思います。

次第4の「議事」では、「第3次基本計画検討に当たっての視点」に関するご意見の中から、本日は「①その他に盛り込むべき視点及びその具体的な支援策について」及び「②第3次基本計画検討に当たっての視点について、行政として取り組むべき具体的な支援策」の2点についてご議論いただきたいと思います。

まず、事務局より説明がありますので、お願いいたします。

(事務局：松浦工業振興係長)

まずは、本日の審議会開催にあたり、事前にお送りした調査票で多くのご意見を出していただき、誠にありがとうございました。お手元に皆様からいただいたご意見を取りまとめた表をお配りさせていただきましたので、ご確認ください。

本日は、何かを決める場といよりは、第3次基本計画を検討する上でできるだけ多くのご意見を伺う場にしたいと考えておりますので、幅広いご意見をお聞かせいただければと思います。

それでは、簡単にご説明させていただきます。

「資料1」では、これまでの審議会でご発言のあったキーワードを基に、事務局で検討した「第3次基本計画検討に当たっての視点」として、「AI・IoTの活用・支援」「OB人材の活用による支援」「中小製造事業者の事業承継支援」「伝統産業における技術の保存・継承」の4点を挙げさせていただきます。

続いて、「次第4 議事」と書かれたA3横版の資料をご覧ください。委員の皆様からいただいたご意見を、(1)「第3次基本計画検討に当たっての視点」に関しては①その他に盛り込むべき視点やその具体的な支援策、②行政として取り組むべき支援策、③ヒアリングすべき企業についての3点について、次に(2)登載事業以外に盛り込むべき事業、最後に(3)その他、の各項目別にまとめたものです。

複数回答のあった簡単にまとめましたが、(1)の②では、AI・IoTの活用について「導入方法や資金、導入後の人材活用等に支援すべき」、OB人材について「人材の一元的な把握が必要、受入後の有効活用を」、事業承継について「情報発信や個別の対応が必要」等のご意見をいただいたところです。

事務局からは、以上でございます。

【山内会長】

ただ今の事務局からの説明を受けて、皆様のご意見を伺いたいと思います。

まず、①その他に盛り込むべき視点やその具体的な支援策について、表に記載の順番にお願いします。

【山下委員】

この計画の中で、総合計画の「人口 70 万人維持」とうまく繋がる象徴的なものはないかと考え、子供たちが将来、戻って就職でき、地域が発展するということがスローガンの的にわかっただら良いと思って、意見を述べさせていただきました。

【上妻委員】

RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）による、単純・反復作業のロボットによる自動化は、人手不足の中で、製造業に限らず、生産性向上のため早急に取り組むべきですが、99%を占める中小企業が自ら取り組むには障壁があつて、市が中心となって後押しする必要があると思いますので、「AI・IoT の支援」の項目とは分離して、この項目を追加して取り上げていただくよう提案します。

【山内会長】

AI・IoT と RPA との関わりという、どうなりましょうか。

【上妻委員】

RPA は AI・IoT の範疇に入るとも考えられますが、導入方法がわからないなど AI・IoT の取組が進まない中、省力化すべき反復作業はどの企業にもあるもので、RPA は身近に取り組みやすいことから、AI・IoT の導入のきっかけになるという意味合いもあります。

【前田委員】

静岡で若い人たちが新しく事業を始めようする時に、チャンスがありそうだ、成功しそうだという雰囲気がないと、そういう気も起きないし、戻って就職する人も増えないのではないかと思います。融資などの支援はありますが、例えば、新規創業者の販路開拓は困難なので、行政などが販売実績のない商品を購入するなど、チャンスを後押しするような支援があればと思います。

【望月（磨）委員】

市民の地場産品・伝統工芸の PR 方法として、市民に広く知ってもらい、市民を通じて発

信するツールを作りたいと考えました。静岡市の産業や伝統工芸について、若者の認知が進んでいないという印象がありますので、高校や大学で企業の方を呼んで授業を行っていただくことなどで、ものづくり産業に就きたいと思う若者が増えるのではないのでしょうか。

また、住宅モデルルームに展示することで、地場産品が生活に取り入れられているというイメージが付きやすいと思います。

女性の就職支援については、女性ならではの感性や視点を取り入れた商品開発を行っていくこと、その上で女性の就労環境を整備することが必要だと思います。

【山内会長】

ありがとうございました。

次に、②行政として取り組むべき支援策のうち「1 AI・IoT の活用・支援」ですが、まず、私の意見を申し上げます。

AI・IoT が急速に進んでいる中、成果が表れている事例が見えてきました。例えば物流業の自動倉庫です。アマゾンなどの自動倉庫は新しい技術を使って、無人化に近い状況になっている。これが応用できるのではないかと思いました。ロボットによる位置情報の技術、ドローンやセンサーカメラの技術は飛躍的に進んでおり、これらをいかに上手く活用するかということだと思っています。

また、商工会議所の製造現場改善事業は相当、成果を上げており、これに加え、省力・省エネ技術にビッグデータを活用することも考えられ、これらを含めて活用の事例が増えてくれば、イメージも湧きやすくなると思います。

【小澤委員】

AI・IoT などの導入は、中小規模の企業にとっては、まだハードルが高いと感じています。導入方法がわからないし、費用もかかります。こうした中で、今、国や市による補助金や専門家の派遣など様々な支援制度が増えているので、これらの周知を図ることがまず、そのハードルを低くする第一歩だと思っています。

また、補助金を受けるための経営計画・事業計画を策定する中で、現状や導入による改善の効果などが見えてくるので、こうした計画の策定を支援してあげるのも、活用する大きなメリットだと思っています。導入事例をどんどん出してあげることが、中小規模の企業でも IoT が身近になっているのを知ってもらえる機会として、有効だと思っています。

【松岡委員】

ものづくり補助金はありますが、補助金を活用しても、IoT の導入には多額の自己資金がかかります。基盤に対応した建屋、最新のパソコン、3D に対応したソフトなども必要です。オペレーションシステムが機械メーカーごとに違うということも大きな問題です。

また、導入したとしても機械を扱える人材がいません。導入後、軌道に乗るまでは、経

験のある専門家を派遣していただくなど、中・長期的なビジョンで考えるシステムがほしいかなと思います。

(事務局より情報提供)

平成 30 年度～32 年度の中小企業の設備投資に係る固定資産税の軽減について
これに伴うものづくり補助金・IT 補助金の補助率かさ上げ・優先採択について

【前田委員】

事業者は AI について何かしなければという思いはあっても、自社の事業とどう結びつけていいのか、わからないまま時間ばかり過ぎてしまうといった状態なので、何か少し先をみたようなアクションが必要かと思います。

【望月（有）委員】

導入方法がわからず、設備投資もかかることで躊躇されている場合もあるので、低コストで段階的に導入できる事例などをまとめたものがあると、事業者さんが前向きになれると思います。また、国の補助金が対象外とされることもあるので、そうした場合に市が採択して補ってあげるなどの制度を検討していただければと思います。

【牧野委員】

「経済波及効果を考慮に入れた支援」を提案させていただきました。AI・IoT の活用による生産性の向上や費用削減は、それを原材料や部品等に用いる他の産業の費用を削減させ、価格競争力を向上させます。静岡市では特に「自動車部品・同部品」と「食料品」の分野で、価格競争力の向上が期待できるとの分析結果がありますので、この分析結果を考慮に入れた支援も考えられると思いました。

また、「静岡市が製造品出荷額で県内 1 位になった」という新聞記事に記載のとおり、静岡市の産業の特徴は「食料品や化学など産業構造が多様である」ことなので、こうした特徴を生かした支援も考えられえると思いました。

【山内会長】

ありがとうございました。複数回答のあった内容について、事務局がまとめたとおり「導入方法がわからない、資金に余裕がない、導入後に運用できる人材がない」ということなので、これらをどのようにまとめていくか考える必要があると思います。

次に、「2 OB 人材の活用による支援」について、お願いします。

【山下委員】

OB の活用は必要ですが、自ら発信する方はそれほど多くないので、また、退職した後、

間が空いてしまうとフルタイムで働くのも難しいので、「発掘の仕方」や「受け入れ易い業務形態」などを工夫していただければ、まだまだ活用できる人材はいると思います。

【上妻委員】

OBの人材活用は、世間の要望も高く、具体的な支援の道を作ってあげなければと思っています。マンパワーカフェというNPOで、静岡市内を中心に約50社の会員、支援メンバーは約100人で活動していますが、企業の要求に簡単には応えられない。新陳代謝が必要で65歳位の方々にどんどん入ってほしいと思っていますが、なかなか入ってもらえないという悩みもあります。

ハローワーク、シルバー人材センター、B-nestなど、いろいろな機関がありますが、どこに行ってもいいのかわからない状況なので、少なくとも公的機関は市で一元管理をして、仕事をしたい人と仕事をしてもらいたい人がここに来ればわかるという場を作っていただきたい。仕事を求める人の中にも毎日働きたい人とか、週2日の軽い仕事がいいとか様々なので、それを分類してプールしておかないとアプローチができません。

市役所と、OB人材の活用の話を1年前くらいにしたと思いますが、今、どのようになっているのかお聞きします。

(事務局：松浦工業振興係長)

市では、健康長寿・生涯現役の観点から、また、中小企業の経営支援の観点からも、OBが高いスキルを活用して活躍していただける仕組みを、経済局サイドだけでなく、保健福祉長寿局の審議会でも検討しており、また、行財政改革の推進協議会でも同様の議論が行われています。

経済局では、関東経済産業局に登録されているマネジメントメンターと、経営課題を抱える地元中小企業とのマッチングを、今年6月に計画していますが、こうした地元企業の経営課題の解決という視点で、マンパワーカフェや日立理科クラブなど市内OBの方々のお力も借りて進めていきたいと考えており、これについては、またご相談させていただきたいと思います。

【上妻委員】

ありがとうございました。時間がかかるとはありますが、楽しみに待っています。

【望月（有）委員】

日ごろ、企業を回っている指導員さんと企業OBと一緒に支援できるよう、まず、相談の入り口として、商工会議所など製造業の企業が行きやすい場所にコーディネータを配置することが必要だと思います。

【山内会長】

ありがとうございました。

この項目では、事務局で説明いただいたとおり、「環境整備として登録バンクの一元化、相談窓口の統一、OB人材の受入環境」について検討を進めたらどうかということです。

全国的に、この人材については大きな問題になっており、解決策が出ていない状況です。人口が減少する中、留学生や実習生などの外国人労働者が増加していますが、留学生も実習生も、いずれは帰ってしまうということで、十分な対応になっていないのではないかと思います。一昨年、フィリピンの現状を調べに行きましたが、これから日本に行く実習生に日本語や日本での生活について教えており、特に介護などで成果が出ているとのことでした。人材については、こうした点についても広く問題点を出して議論していく必要があると考えて、提案させていただきました。

次に、「3 中小製造事業者も事業承継支援」について、お願いします。

【小澤委員】

事業承継は長い期間を要するので、早いうちから取り組む必要があることを伝えるため、今年度、商工会議所では国の委託を受けて、5,300 事業者に対して事業承継診断を実施しました。次年度は専門家を増強して、具体的な支援に入れるよう、準備を進めているところです。事業承継について気軽に相談できる窓口が身近な所にあることを事業者にも周知していきたいと考えています。

【松岡委員】

事業継承で相続する場合、株式譲渡における税金対策が非常に大きく、中小企業が株式を持っていても潤うわけでもなく、手放す方が圧倒的に多い状況なので、企業のもの和个人のものを切り離して別の問題として扱っていただく制度が必要かなと思います。

【望月（磨）委員】

事業承継のセミナーや勉強会などが開催されているので、経営者の方々には気軽に参加していただきたいと思います。

【望月（有）委員】

国・県などの事業承継についての支援は、窓口相談は広がって来ていますが、その後の具体的に承継しようとする方への支援策が手薄なような気がします。クラフトマンサポート事業が有効だというお話を前回、お伺いしましたが、優れた技術を持ちながら後継者のいない中小企業にも、同様の制度があれば良いと思います。

また、優れた技術を違う分野で応用して新商品が生まれ、結果として後継者に引き継いだなど、成果を出している事例も見られるので、事業承継にとっても、商品開発だけでな

く販路開拓まで一緒にサポートする仕組みが必要だと感じました。

【山内会長】

ありがとうございました。事務局でコメントを書いていたとおり、この項目では「情報発信や勉強会の実施、対象事業者の状況に応じた個別の支援」が大きな問題であると感じております。

次に「4 伝統産業における技術の保存・継承」について、お願いします。

【小澤】

後継者人材バンクについて、4月から、行政と連携して、事業を譲りたい人・譲り受けたい人双方の登録を増やしてマッチングさせる取組を進めていくので、ものづくりに関係する方、特に若手の方に多く登録していただき、後継者をうまくマッチングできたらと思います。

【上妻委員】

伝統産業だから残すというよりも、伝統産業のノウハウや技術を使って、現代にマッチした魅力ある商品やサービスをいかに生み出すかがポイントであり、伝統産業の方々が自らそれに取り組めればベストですが、なかなか難しいので、それをサポートすることが必要だと思います。

【杉山委員】

今、浅間神社の保存修理を、京都の職人さんと呼んで行っていますが、元々静岡市の伝統産業は浅間神社を作るために職人さんが集められて発達してきたので、一から見直して、今の浅間神社の修理保存を静岡市の職人の中でやっていけるよう若手を育成することで、伝統産業を盛り上げていくのも大事だと思います。

【鳥羽副会長】

「静岡伝統技術ライブラリー」と名付けてみましたが、伝統産業の技術を保存するには誰かが受け継いでくれることが一番良いのですが、今後、継承できずに途絶えてしまう技術が出てくることも考えられるので、秘伝・秘法までも含めてすべてさらけ出して映像に撮って残したらどうか。もちろん、公開については条件を付けることにはなりますが、一度途絶えた技術を復活させるのには困難が伴うので、技術のセーフティネットとして少しづつ貯め込んだらどうかという提案です。

【望月（磨）委員】

静岡産業大学の冠講座として、企業の方を大学に呼んで授業をしてもらう、また実際に

企業に訪問して仕事をしている所を見るということが行われていますが、同じことを伝統産業でも実施することで、伝統産業に興味を持つ学生も増えると思いました。

また、例えば「日本仕事百貨店」というサイトがあって、職業風景や技術者の思いが詰まっています。惹きつけられるのですが、伝統産業でもこのような画像付き求人サイトを創設したらどうかと思いました。

【望月（有）委員】

市内には多くの外国人が訪れていて、この中には、伝統産業に興味を持つ方も大勢いるはずですが、彼らが伝統産業に触れてその良さを知っていただく機会があれば良いと思いました。

【牧野委員】

留学生は日本文化に興味を持って来日したので、伝統産業に関心を示す学生はいるはずですが、ビザの切り替えなど課題もあります。これら留学生を活用すれば、人手不足の解消、海外へのPRにもなりますので、施策として留学生が伝統産業に触れる機会を設けること及びその就労支援を考えました。

【山内会長】

それでは、今日、議題にあげた項目については、ここまでとなりますが、「③ヒアリングすべき企業等について」にありますとおり、これから事務局を中心に企業や団体などに調査していただくこととなります。ご提案ありがとうございました。

これで議事が終わりましたので、進行を事務局に戻します。ご協力ありがとうございました。

（事務局：松浦工業振興係長）

会長並びに委員の皆様、ご協力ありがとうございました。今日いただいたご意見は事務局でまとめさせていただきます。今後の予定ですが、ヒアリングについては委員にご同行いただくこともあるかもしれませんが、事務局中心で行います。また、課題のまとめ、基本計画の方向性の検討については、審議会の場ではなく、11月にご説明しました製造業中心の「調査研究部会」と「伝統工芸創造部会」の2つの部会で、ご意見を伺うことも考えています。

また、来年度第1回目の審議会ですが、産業振興プランの策定が早まる見込みであることから、9月の予定を1、2か月前倒しで開催させていただく予定ですので、よろしく願いいたします。それでは、本日の審議会は、これで全て終了となります。終了に際しまして、「閉会」を加納課長にお願いしたいと思います。

(事務局：加納参与兼産業振興課長)

皆様、本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございました。

本日は第4期の委員の皆様での初回の審議会ということで、諮問や審議会の概要説明、第2次ものづくり産業振興基本計画の実施状況の報告などが主な議題でありました。第3次ものづくり産業振興基本計画の策定に向けたご議論は、次回の審議会から本格的にスタートすることとなります。

皆様には、ご多忙の中でのご対応となろうかと思いますが、何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

それでは、本日の審議会を終了します。本日は誠にありがとうございました。

本会議録は、平成29年11月10日開催の「第19回静岡市ものづくり産業振興審議会」の会議内容と同一であることを証する。

署名人 会 長

委 員